

家族の存在

金木中学校

二年B組

新岡

雄斗

新型コロナウィルスの影響で、僕達の生活は一変しました。突然の休校のお知らせにみんなが戸惑い、僕の見限り、喜んでいる人はいましてした。次みんなに伝えるのがいっになるか、こんなに休んで勉強があとから大変にならないのか、先輩と一緒に中体連に出れるのかなど数えるとキリがないほど不安になりました。

そんな中、僕は家族の大切さを見つけるところが出来ました。僕の母はドラッグストアで働いているので、開店前からマスク目当てに並ぶトの為にいつもより朝早く仕事に行っていました。なご僕と弟は朝食がたちやわんを洗ったり、たまに洗濯を干したりしました。昼食は、祖母が作ってくれました。健康でいれるようお昼から毎日カレーやシチューを作っています。僕達のことを全力でサポートしてくれました。

何よりも僕がさみしい思いをしながらのは弟の存在です。いつも一緒に居る時間が常にキャッチボールをしたりバットティング練習をしいました。おかげでゲームをしすぎず、体をきたえて生活することができました。それもこれも今の僕の生活は家族の協力のもとに成り立つているので、その感謝を忘れずに生きていきたいと思えます。

このように家族の大切さに気付けたこと以外に、考えの変化もありました。テレビを付ける時、この自粛生活で痛手を受けこいる職業がたくさんありました。僕が小さいころ夢を見ていたプロ野球選手も、観客がいなくなり収入は落ちます。それでもプロ野球はみんなに夢を与えるし、僕から野球のテレビをとってしまつたら、観るものがないくらい大切な存在です。だから、どうにかこの状態をアラに転換できたら良いと思いました。